

菖蒲池集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

菖蒲池集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0. 1ha（区域内の農地面積5.3ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

地域区民と農産物との調和を図り生産性及び付加価値を高める農産物を作り販売していく。

また、遊休農地および調整水田等は作物生産に結び付ける様に区民一同協議しながら努める。

小矢戸集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

小矢戸集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.3ha（区域内の農地面積4.6ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

農地中間管理事業の活用も視野に入れ、農地集積に賛同してくれるよう、担い手農家と話し合いを行う。

鳥獣害対策は、住民一緒になって電気柵等の対応にあたる。

下中野集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

下中野集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.3ha（区域内の農地面積1.5ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

中心となる農業者に委託し、放棄農地とならないよう集積化に努める。

庄林集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

庄林集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	2 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

2ha（区域内の農地面積84ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

ネギ、里芋を庄林区の特産としていく。今後も担い手を中心に集積する。

上中野集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

上中野集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 4ha（区域内の農地面積50ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

上中野区の現状を考えた時、農業・農地の集約化は避けられない。  
今後、本プランを活用し、問題の解決を図っていく。

堂本集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

堂本集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2経営体
個人	4経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0ha（区域内の農地面積26.7ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

人・農地プランに基づき、集落内中心農家の集約を図り、中心農家の経営規模拡大を進め、将来的には、中心農家を主体とした生産組織への移行を目指す。

右近次郎集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

右近次郎集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1 ha (区域内の農地面積4.2 ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

認定農業者1名と2法人を地域の中心となる経営体と位置づけ、農地の集積を促進する。

法人では、農地集積により生ずる余剰労力を活用し、特産作物(サトイモ、ネギなど)の生産拡大を図る。

生産物の高付加価値化を図るため、環境調和型農業を研究する。

阿難祖領家集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

阿難祖領家集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

3. 2ha (区域内の農地面積4.2ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

当集落は24世帯あり、22世帯が生産組合に加入している。今後、組合に加入していない農家から、農地の貸し出しの依頼があった場合には、生産組合で引き受ける。



下黒谷集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

下黒谷集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

集落営農（任意組織） 1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0ha（区域内の農地面積18ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

地域の土壌に適した農産物の栽培も検討する。

イノシシ等の被害があるため、電気柵等の対策を講じていきたい。

小さな集落であり、地域のまとまりはよい。集落営農組織（下黒谷稲作組合）については、経理の一元化も図り、集落内の畑以外全ての農地を集積している。現在はうまく運営できているが、次の後継者が少ない。今後、法人化も検討しているが、規模が小さく法人化した後の不安も大きい。また、農政も大きく変わろうとしており、その動向も気にかかる。大野市、テラル越前農協の指導も受けながら組合運営を検討する。もしできれば近隣の生産組織との合併も視野に入れ考えていく。小山地区全体で組織化されることが理想。

医王寺集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

医王寺集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

3.6ha（区域内の農地面積37ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

現在は遊休農地はないが、出たときは経営体と協議して地域農業を維持管理する。

森政領家集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

森政領家集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2経営体
個人	4経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 2ha（区域内の農地面積5.5ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

比較的規模の大きい農家が多く、水稻や里芋、ねぎの栽培をしながら自立している。

現状をいかに維持していくかが今後の目標とする。

他地区での受託も多くますます規模は大きくなると予想される。

上据集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

上据集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	3 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0ha（区域内の農地面積4.2ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

担い手の負担を軽減するために人手のかかる作業には協力する。

御給集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

御給集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	7 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

3ha（区域内の農地面積53ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

現在の認定農業者・法人、および担い手農家に類する耕作者を中心に地域内農地の集積を進めることとする。サトイモ、ネギ等の農産物により収益を高め、水稻のような高額機械設備を要しない作付け体系を進めている農業者が多数おり、今後もこの方法で進めていきたい。稲作経営面については、農地の集積または機械類の共同化を進め、費用対効果を高めていきたい。

中据集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

中据集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	7 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0ha（区域内の農地面積66ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

集落内の認定農業者等を今後の中心となる担い手農家と位置付けるが、当面は、個々の農業者が現在の耕作地を管理していくこととし、面的な農地集積や園芸の導入について、順次検討していく。

新規就農者を育成していく。

下据集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

下据集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	4 経営体
個人	6 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.7 ha (区域内の農地面積5.4 ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

今後も農業を続けられずに農地を預ける可能性が出てくるため、集落内の新規就農者、橋本恒夫氏と、羽生孝友氏を地域の中心となる農家に位置づけ、今後も地域農業を維持していく。また、現在、一部の農家はすでに、集落外の認定農業者や生産組織に農地を預けている。これらの農家も地域の中心となる農家に位置づけ、効率よい農業経営をめざし、耕作放棄地の発生防止や後継者不足に備える。

東山集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

東山集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1 ha (区域内の農地面積33 ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

担い手への農地の集積を図ると共に、園芸作物の導入を促進していく。



野中集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

野中集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	2 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

3. 2ha（区域内の農地面積23ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

圃場の大区画化、担い手への集積・集約に取り組む。

カラス、タヌキ、ハクビシン等の鳥獣害対策を充実させる必要がある。

北御門集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

北御門集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	4 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.9ha（区域内の農地面積2.9ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

集落内では一部、集積化が進んでいるが、集落内の担い手は高齢化や後継者不足のため、近接集落内の農業者6名を、今後の中心となる担い手農家と位置付け、農地集積や園芸の導入について、図っていく。

西山集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

西山集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

個人	2 経営体
集落営農（任意組織）	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

3. 1ha（区域内の農地面積7.5ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

里芋、ネギ、大豆等の特産品の生産に取り組む。

エコファーマー化に取り組む。

集落全体で電気柵の設置等、有害鳥獣対策に取り組む。

中村町集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

中村町集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	5 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0ha（区域内の農地面積27ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

#### 園芸導入・定着

特産指定の里芋・ネギの生産拡大を図るため、機械の共同購入・利用、農地提供農家に選別等の共同作業を担ってもらう仕組みづくりに取り組む。

#### 鳥獣害対策

いのしし対策等を集落ぐるみの共同作業として位置づけ、取り組む。

佐開集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

佐開集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

集落営農（任意組織）	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.8ha（区域内の農地面積39ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

鳥獣害の有効対策を検討する。

遊休農地の対策を検討する。

TPP等、最近の農業情勢を考えれば、今後は小規模の農業では経営が成り立たなくなり、また国等の援助も受けられなくなるので、当面は生産組合を中心とした集落営農を続け、近い将来、法人化に向け検討する必要がある。

下麻生嶋集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

下麻生嶋集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 8ha（区域内の農地面積110ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

当地区の農地は現在、約6割が担い手に集積されている。

残り4割の農地においても後継者が確保できにくい現状であり今後は、担い手への集積が進んで行くと考えられる。

課題としては、担い手への集積が進み耕作規模が拡大すると現在の設備規模では無理となるので、新たな設備投資が必要である。

また、規模拡大をしたとき労働力も不足するが、出し手農家の労働力を有効利用する体制を構築していく方向を模索する。

富嶋集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

富嶋集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

個人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.2ha（区域内の農地面積8.2ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

区としての課題は、区内の農地から遊休農地を出さないことである。幸い現在、遊休農地は存在しないが、今後発生する恐れは十分考えられる。そのためにやむを得ず離農せざるを得なくなった農家の農地を区として貸し付けや委託の方法で区内の農業者が耕作していくことを最大の目標としている。

森目集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

森目集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

個人

7 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 6ha (区域内の農地面積45.6ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

当分の間、中心となる経営体7人に農地を集積して、農業をやむなく継続できなくて耕作放棄地となることを防ぐ。



新河原集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

新河原集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0ha（区域内の農地面積36ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

地域内にて連携を図り営農を進める。

新田原集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

新田原集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

個人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.5ha（区域内の農地面積19ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

水稻以外に特産のサトイモなどの作付けも行っていく。しかし、高齢化が進み作付面積も減ってきている。

集落の農地面積が少ないため、単独での集落営農組織の立ち上げは難しいが、中心となる農家へ農地を集積し集団化することで、担い手が効率的に営農できるようにする。

イノシシの被害があり、電気柵などの対策をする必要がある。

当面は認定農業者に集積し、効率的に営農できるようにするが、将来的には近くの農業法人等をお願いするようになると思う。

土布子集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

土布子集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	2 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0ha（区域内の農地面積35ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

中心経営体に集積していく

真名川、九頭竜川両方に挟まれ獣の害有。電気柵等を設置し被害を防ぐ。

御領集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

御領集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0. 8ha (区域内の農地面積8ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

現在、集落内農家8戸のうち、4戸が全農地を担い手に預けている。

後継者が農業をできないことと、減反が続く中で専門的に耕作面積を拡大しても経営が困難であると考えるため、中心経営体と連携して集落の農業を維持していく。

小黒見集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

小黒見集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

個人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.5ha（区域内の農地面積8ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

高齢化により農業経営が難しくなる中、将来的には、中心経営体に農地を集積する。その他の農家は自家消費程度の生産になる。

鳥獣被害を抑止するため、集落全体として鳥獣害対策に取り組む。

森本集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

森本集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.1 ha (区域内の農地面積2.3 ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

出来るだけ中心農家に農地を集約していきたい。  
鳥獣害対策は区民で行う。

橋爪集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

橋爪集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

個人

2経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.5ha（区域内の農地面積34ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

近くにスターランドさかだにがあり、直売活動や環境保全型農業に取り組んでいきたい。

集落営農組織がなく、高齢化とともに農地管理にかかる各農家の負担が大きなものとなってきている。今後も農地を維持していく必要があり、中心となる経営体と連携し農地の集積を進め、その経営体の効率的営農を図る。

イノシシ、カラス等鳥獣の被害を減らすよう地域で取り組んでいく。

菘道集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

菘道集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 1ha（区域内の農地面積40ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

販路を開拓し、減農薬の野菜等の栽培にも取り組んでいきたい。

地域に機械利用組合はあるが、集落営農を組織化に至っていない。耕作放棄地を出さないように、中心となる農家へ農地を集積するなど効率的な営農を促進する。

カラス、ムジナ、イノシシ、ハクビシン、キツネなどの被害があるため、対策を講じていく。



石谷集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成30年10月31日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

石谷集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年10月24日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.9ha（区域内の農地面積10ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

堆肥の投入に助成するなど有機農業により慣行農業との差別化を図りたい。

中心となる農家へ農地を集積するなどし農地を維持していく。

イノシシやハクビシンがいるため、被害防除対策を講じていきたい。